

佐伯港 女島地区 予防保全事業の概要

- 現在、佐伯港の女島地区では、原木の輸出入、石膏の輸入、ヤシ殻の輸入を行っており、県南地域の物流拠点として重要な役割を担っています。
- 平成21年に実施した詳細点検の結果、築造後40年以上経過している岸壁（水深10m）において、鋼管杭と土留鋼矢板の腐食や、腐食した鉄筋の露出など、老朽化が著しく進行していることが判明しました。
- そのため、危険箇所を明示するなど利用制限を行い、平成28年度より予防保全事業（老朽化対策）に着手しています。
- 本事業により、荷役作業の安全性が向上するとともに、港湾施設の長寿命化を図ることができます。

岸壁（水深14m、延長280m）
平成25年（2013年）完成

未整備区間
70m

岸壁（水深10m、延長370m）
昭和52年（1977年）完成

【鋼管杭腐食状況】



【土留め矢板腐食（穴あき）状況】



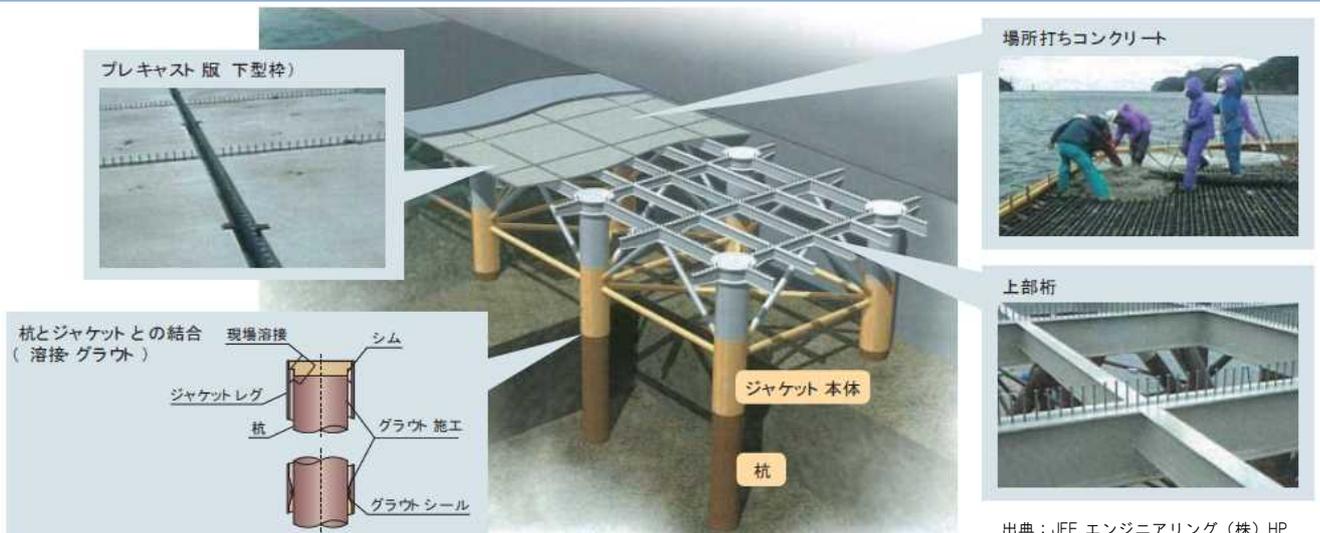
【スラブ下面鉄筋露出状況】



■ ジャケットの特徴

- ジャケットは、鋼管で組み立てた立体トラス構造の構造物です。杭に被せる格好となることから、上に羽織るという意味で「ジャケット」と呼ばれます。
- ジャケットとは、栈橋・岸壁の新設、増深、耐震及び老朽した既設構造物などの更新にも用いられる工法です。工場製作したジャケットを現地で一体架設するため、現地施工の期間を短縮できるなどのメリットがあります。
- ジャケット工法とは、あらかじめ海底地盤に打込んだ杭の上に工場製作したジャケットを据え付け、杭とジャケットをグラウトで一体化させた構造です。
- [※今回対象：博多港中央ふ頭西側岸壁の場合]

■ ジャケットの構造概要



出典：JFE エンジニアリング（株）HP

